

Sustainable Report No.078

コスメブランドの 容器改革

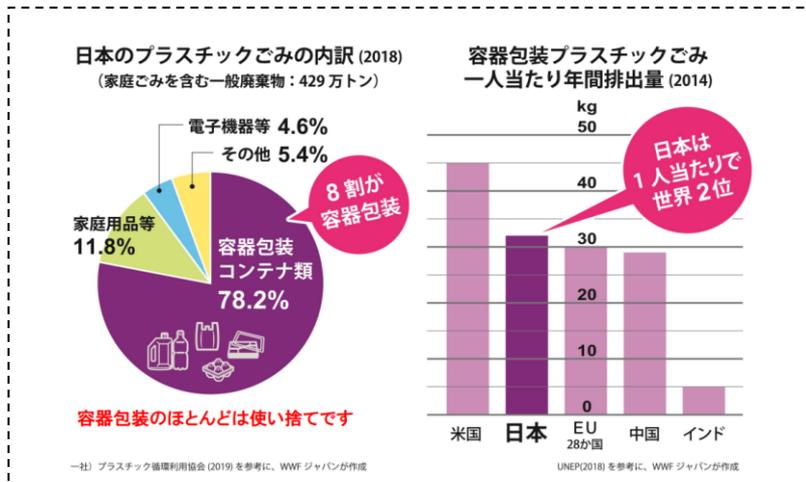


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

- 日本では、年間850万トン（2019年）消費される**プラスチックのその後の有効利用割合**は、焼却による熱回収を除くと**34%**に留まる。
- プラスチック容器包装の多くは**使い捨てが前提**であり、特に衛生面を重視される商品においては再生材の使用が懸念される。
- プラスチック原料の石油は枯渇が危惧され、それらを**輸入に頼る日本**は資源をめぐる国際情勢によって**調達条件が変動**する。

■ プラスチックごみのほとんどが使い捨て



■ (根拠データ名称)



▶ NEXT : コスメメーカーによるプラスチック容器の見直し

■ 実行者／解決方法／残る課題

- 世界的なコスメブランド「**CHANEL**」（シャネル合同会社）は、2025年までにCO₂削減の目標設定を目指し、**環境配慮型商品のラインナップを拡大**している。
- 2022年1月に発売したフレグランスボディミストの容器キャップには、**90%再生可能資源の植物由来の素材、10%は椿の種子の殻**が使用されている。
- さらに**使用後にリサイクルする製品設計の対象**が広がれば、セカンドユースから資源循環に道が拓けるだろう。

■ ロールージュ N°1 ドウ シャネル



出典：左右ともにシャネル合同会社

■ 製品情報 — パッケージ



▶ NEXT : 衛生面を保つ資源循環へ

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- メーカーや販売者が継続的にリサイクルするためには、**販売した商品を回収するコスト**などを「負担」しなければならない。
- メーカーやブランドが**使用済みの容器の「衛生面」**を保ちながら資源循環することが理想である。
- 今後は、店舗サービスや物流における**容器回収の効率化**や、洗浄などを要さず**水資源を保護**しながら衛生面を保つ技術が望まれる。

■ Loop (協業メーカーの日用品や食品などの容器を耐久性のあるリユース品に替え、使用済み容器を回収し、洗浄し、商品を充填し、再び販売させる仕組み)



Loopの仕組み

Loopは、世界中の様々な製品カテゴリーにおいてリユースの効果を最大化すること、小売店などの既存購入チャネルを通じてリユース商品を流通させることによって、消費者が便利に利用できる仕組みを提供することを目的に構築されています。私たちは、消費者が日常的に参加できる便利でシンプルなりユースの取り組みを実現することを目指しています。

メーカー

Loopは、世界各国のメーカーと協業し、使い捨てのパッケージの代替となる耐久性に優れた容器を開発しています。容器のリユースを可能にすることで、パッケージはコストではなく資産となり、新しい資材や機能、そしてより良い消費者体験を提供することが可能になります。



出典：左右共にLoop Japan合同会社

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン, 「海洋プラスチックごみについて考えよう」, 2020年7月10日
(<https://www.wwf.or.jp/activities/data/20200710wildlife02.pdf>)
- 西日本新聞, 「福岡市、ペットボトル完全再利用へ 22年度開始、半量はボトルに再生」, 2022年2月3日
(<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/871318/>)
- シャネル合同会社, 「ロー ルージュ N°1 ドゥ シヤネル」, 2023年7月21日参照 (<https://www.chanel.com/jp/skincare/p/140680/n1-de-chanel-leau-rouge-revitalizing-fragrance-mist/>)
- Loop Japan合同会社, 公式Webサイト, 2023年8月9日参照 (<https://exploreloop.com/ja/>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社小川電機に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。